常磐毎日新聞

日刊

十二月八日夕刊

定價 一部金貳錢 一ヶ月金五拾錢 郵稅五厘
廣告料 普通一行五拾錢、場所指定一行七拾錢
日曜祝祭日の翌日休刊
發行兼編輯人印刷人 坂本忠治
發行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇番
印刷所 常磐毎日印刷株式會社
（振替口座 東京 四〇二一〇番）

印刷の御用は
常磐毎日印刷株式會社へ
電話六三〇番

遺族達に感謝
よい年であれかしと
平署が暮の贈りもの
管內全部に運動呼號！
市町村が夫々計劃樹立

出征軍人遺家族によいお正月を迎へさせたいとは誰もが持つ人情であり銃後の務めでもある、各市町村中にはそれ〲計劃を樹てゝゐる向きもあるが平署では管內全部の運動としたい意向から市町村銃後會に呼びかけ出征遺家族感謝週間やうのものを催し各有志からのしもち慰問金等を募り遺家族を暖かい心で包まうと目下計劃を進めてゐる

遺家族に歲暮贈與

植田町では町內出身勇士の遺家族に對し五圓乃至十圓の歲暮を贈ることになつたが來春早々には小學校で遺家族慰安並に勇士の武運長久祈願を行ふ

街路に溢る、
大陸行進曲
ビクターから
演奏車が來平

ビクター主催大陸行進曲演奏自動車が明九日來平街路を演奏しつゝ徐行すると

勿來獎勵金

勿來　勿來町では今八日同町青年會館で完納納稅組合五十三組合を表彰合計八百三十圓の獎勵金を交付した

貯蓄機關營業時間を
延長して奮鬪
戰時下の經濟を强調
十五日から廿一日迄

戰時下經濟强調週間は既報の如く來る十五日から二十一日迄全國一齊に實施されるが市內に於ける各貯蓄機關は營業時間を左の如く延長することになつた

普通銀行は午後四時迄、貯蓄銀行、無盡會社及び庶民金庫は同五時半迄、郵便局は同六時迄（十八日の日曜日は除く）

お正月用品
のし餠や數の子等
値上り防止
業者を調査

お正月用品ののし餠や數の子などが例年に比べて値上りするだらうとの危惧を抱く向も多いので平署では取あへず市內の業者について樣子を調べこれ等は統制外のものだから强制する譯には行かないが餠の搗賃をはじめ可及的に業者の自肅に俟ち協定して暴利をむさぼることのないやう促すことになつた

泉村遠乘會

泉村　泉村の軍用調馬鍛練會では六日會員二十三名が會旗を先頭に勿來の關跡まで行程約八里の遠乘り會を催したが頗る好成績であつた

鍬の戰士
勇躍現地へ

わが鄕土少年「鍬の戰士」の一人內鄕村大字御厩佐藤喜三（一六）君は勇躍故鄕を出で外四十六名と共に茨城縣內原滿蒙開拓少年義勇軍日輪兵舍に身を投じ二ケ月間汗に奪き開拓魂を養成してゐたが七日同所を出發さらば故國よ！父よ！母よ！と日章旗を打振りつゝハルピン現地訓練所へ入所することゝなつた

錦村隔離舍

既報　錦村大字中田地內に建設されることになつた同村隔離病舍の地鎭祭は五日執行された、請負者は同村大谷留次郎氏、敷地八十四坪、工費一萬圓で來年二月下旬まで竣工の豫定である

遺族の寄附

既報　夏井村上大越出身阿部正上等兵は過般前線で戰病死されたが實父の宗次氏はこの程小學校へ二十円消防、國婦、青年、鄕軍分會、上大越部落へ各十圓合計七十圓を寄附した

戰傷を負ふ

川部　村下小川出身兩角部隊蛭田庫太郎上等兵は九月四日名譽の戰傷を負ひ十一月十九日內地に送還され目下〇〇陸軍病院で加療中である旨この程實家に便りがあつた

留守宅には父粂太郎さん（六八）と妻ミヤ子さん（三六）との間にキクヨさん（一三）巽君（一〇）勇君（七）トモヱさん（四）がある

客へのウヰンク
銃後に相應しくない
華手な飾りは御法度

平署ではカフエーの歲末誘客に目を光らし銃後に相應しからぬケバ〲しい飾りたてや誘客方法を取締るため目下その方針を考究中であるが藝妓や料理店に對しても相當手强い取締りをすることゝなる模樣である

小名濱支局通信

町村の理事者は斯くあるべし

支局長　小野務平

我帝國は國運進展の上から東洋平和百年の大計を樹立する爲めには才を取つて立たねばならぬ事態を生ずる場合、敢然として國難に向ふのがこれぞ吾大和民族の固有の精神である、彼の日清役を切つかけに、日露役亦然りである、更に滿洲事變今時の支那事變等々何れも東洋平和の基礎確立に重點を置いた聖戰でないのはない、そして此聖戰に參加して死を鴻毛の輕きに置き祖國の爲めに硝煙彈雨の中に奮戰し、或は瘁雲万霧の中に猛鬪を續け、名譽の戰死を遂げ或は戰傷を負ふ如き貴き犧牲を拂ひ、何れも國運隆昌の基礎となつて初めて今日帝國が世界の一等國として自他共に許すと云ふ立場を造り得た事は敢て呶々を要しない所であらう

この國難に殉じ忠節を全ふした幾多の將士は何れも靖國神社に合祀され春秋に於て例祭を執行し上 陛下の親拜を辱ふし下國民の崇敬を大ならしむる詣所であるが、全國各市町村に於ては此等將士の靈魂を徒して以て招魂祭を執行し千歲に其忠節を讃美せんとするの意志に出てたる事勿論であるが、更に之を家庭的に仰敬尊崇する上から見て何等かの方途を講ずるの緊急事なる事を考慮する所があつた

玆に小名濱町長小野晉平氏は一案を發案した、則ち日清、日露、滿洲事變、今時事變に參加した本町出身將兵にして名譽の戰死を遂げられた鹽田良吉氏外十四名に對して之を永遠に吾町民の腦裏より忘れざらしむる方針としては十五勇士のおくり名を印刷し之を戶每に配付佛壇に供へしめ各自の祖先と同樣每朝禮拜を欠かさざる樣勉めしむる方法に出でた事の一事である

小野町長が事々物々町民生活に即した生活改善を企圖し何時も賞讃の的となつて居る事は一再でないが忠勇の戰死者に對して其崇敬の念をして一刻も町民各自より忘れしめんとする方策に出てたこの案出は一町の理事者として誠に時宜に適した施設の一つとして滿腔の敬意を拂ふものである

世人多くは事變に遭遇した當座は之を口にし之を文にして其人の功德を讃美するけれ共、歲月の流るゝと共に斯る心掛けが薄き去らんとするのが通例である、之が通例を未然に防ぐ最良法としては小名濱町の此の施設は名案中の名案として他に大勢强るの價値あるものと信ずるが故に特に此欄を割いて天下市町村理事者に呼掛ける事としたものである

豐間校の誇り
模範兒童を表彰

豐間小學校五年生阿部邦一君（一三）は五ツの折母が死亡、かてゝ加へて父は三年前から盲人となつて仕舞つたが漁師として出稼ぎ中の二人の兄の留守を護り健氣にも盲人の父の看護と炊事一切を引き受けて懸命に働く一方勉强も勵んで居るので近所の人々もこの少年の孝行ぶりに感心してゐるが學校當局ではこの程模範兒童として同少年の善行を表彰した、なほ同少年の表彰と一緒に女生徒の同校六年生鈴木かつ子さん（一三）も善行兒童として表彰された、かつ子さんは放課後每日家業の手傳ひをやり小遣ひ二錢づゝ戴いたのを貯金過般五十錢を第一回分として國防費に獻金その後も學業の傍らセッセと家事の手傳ひをやつてゐる感心な少女である

老爺の悶死
身許一切不明

小名濱町字吹松地內道路で六日正午頃苦悶してゐる年齡七十歲前後の男を通行人の同町辨別小松キチさんが發見手當を加へたが間もなく死亡した、原因は心臟痲痺身許等一切不明で町役場で假埋葬をした

寄書

「路傍の石」を見る（三）

―佐藤生―

◇

然し是等の失敗を除けば、落ちつき拂つて、現實に對し四ツに組んだ堂々たる態度と、氣構へと風俗考證に對する細心且つ鋭利デリケートな神經で、日本映畫には一寸類を見ぬ、すぐれたる描寫は隨所に發見される即ち橋上に於て昏倒する場面や、母の自殺を表徵せんとして水底の水藻のうねりの寫法、母の死報に對し吾一は父の膝下を逃れて下藏裏に聲を限りと慟哭する場面、亦は妾宅に於て、芝居見物に嬉々として總肌拔いて化粧する娘の白い襟足に思春期の芽生へにある吾一が、官能的に見る描寫や、蹶然してランプを叩きこわして街頭に進出する迫力ある寫法は、今も强い印象に燃き付けられて喩に再現させることが出來る。

特にセットの素晴らしさは、同監督の良心的製作意欲とコリ性が、斯くの如き結果をもたらしたのであらうが、明治時代の風俗と雰圍氣を出すべく性急さと、焦躁感とで、必要以上に風俗考證を用ひ過ぎた感無いわけではない東京に於ける軌道馬車等は、他所から借り物の如く、何となくチバ〱しく感じ、奥ゆかしさ重さ暗さがなくあたりの風景に溶け合はないのが遺憾であつた

◇

カメラ良好
錄音低調
音樂構成凡

◇

俳優では稻葉屋に扮する井染四郎、書生に扮する江川宇禮雄が良く、吾一に扮する片山明彦は斷然すば拔けて良い、發聲といへ演出といへ、彼のマスクは憂を帶びた眸に秀才兒童らしい聰明さがある、これは近代人が要求してゐるフロスだ片山には贅言を盡くす迄も無く、讀者自身が「人生劇場」「眞實一路」でよく御記憶のことゝ思ふ

◇

この一文を草し乍ら、僕の頭の中は始終「眞實一路」の印象が往來してゐた、恐らく讀者御自身も「路傍の石」を觀覽して居つて該映畫を頭に描いたであつたでせう。

「路傍の石」を「眞實一路」と比較對照して見た時、原作、演出、技法共に破綻のある點「眞實一路」に劣ること數等。然し、其の破綻に反し呼吸苦しき程の迫力と壓迫感は「路傍の石」程少なかつたのはなぜか！

兎に角、感銘の深い映畫であつた。　X生

死亡の報に
氣丈な父親

大野村大字山田出身亥之吉氏（六四）長男木村子之松上等兵は昨秋來中支加藤部隊に加はり各地に轉戰戰功をたてゝゐたが約七十日も便りなく心配してゐたところこの程突然「船中死亡遺骨六日原隊到着の豫定」といふ公電に接した

然し氣丈な父は男の子をもつた甲斐があつたたゞ船中死亡との公電故戰死か病死かそれのみ心配だと語つてゐる實家には母ちよさん（六二）と男三人女二人の弟妹に妻つるさんとの間に三男一女あり出征前までは消防小頭で人望があつた

氣溫が急低下し
本格的冬の襲來

平地方は六日朝から氣溫急降下し六日の最低溫度は二度、七日が一度三分で五日の十七度九分の時候はいづれも暖かさから急激に寒氣が襲來した、しかし昨年六日の最低一度一分、七日の零下二度六分に比べれば大したことはないがとにかく本格的の冬がやつて來た譯だ

上り列車が
雪を運ぶ
屋根にドッサリ
今朝の冬景色

平地方にもソロ〱冬景色が訪れて來た――今八日朝定時六時五十分が十七分も遲れて平驛にすべり込んだ上り急行の列車にはドッサリ雪が積つており驛員や沿線の人々にはいづれも〃ホホー〃と驚いてゐた、青森地方は相當な吹雪なのだらう

盜み廻り
平署に檢擧

湯本町字水野谷長倉坑人夫伊藤喜一郎（四五）は今八日窃盜罪で平署に檢擧され目下取調べを受けてゐる

同人は今年三月以來同坑內から鐵屑百二十貫匁を盜みこれを七十五圓で湯本町某古物商人に賣飛ばした外湯本町瀧屋雜貨店から前後數回に亘つて靴下其他二十餘點、同町矢內自轉車店からチエーン外數點を竊取したこと發覺したものである

桑苗の購入

勿來　町養蠶組合では明九日總會を開き桑苗共同購入の件その他を附議する

相撲の献金

男女の川、前田山の一行を迎へ國防献金相撲興行をした建元の平市大町只野忠康氏は今八日金三十圓を市軍事後援會に寄附した

無免許運轉罰金

山田村大字井上自動車運轉助手澤田松雄（二〇）は去月二十九日頃植田地內でトラックを無免許運轉したこと發覺昨七日平區から自動車取締令違反で略式罰金十五円に處された

天氣豫報

今夕時雨模樣なるも雨とならず明日薄曇り夕刻又時雨模樣と化す或は幾分の時雨を見るに至る可く多少の變化を見るに至るべしと

平商工會主催
時局下小賣商
「今後の行き方」
十日マルトモで
中外商業半谷課長講演

平商工會では平廣告研究會と共同主催の許に來十日午後六時から中外商業新報商店課長半谷眞武氏を迎へルマトモホールで「時局下に於ける小賣商の今後の行き方」と題する講演會を開くことになつた

これは經濟統制がまだ〲繼續される覺悟の下に東京の小賣商が現在どんな風にこの苦難を切り拔けてゐるかの實例によつて講演されるもので時節柄各方面から期待されてゐる

鄕里の小學校へ

高久　高久村出身橫濱市在住貝物商鈴木平重氏はこの程長男が入營し祝ひにと母校の高久小學校へ貧困兒童の學用品代として金十円を送金して來た

キネマ

⊠世界館―上海陷落一周年記念祝賀謝恩興行、松竹作品新妻四郎、最上米子、尾上榮三郎「千兩の腕」高峰三枝子德大寺伸、三浦光子、佐分利信「永遠の感激」（佐々木康演出作品）新興特作大谷日出夫、鈴木澄子「足輕大名」外戰局國際ニユース

⊠平館―日活特作澤田清深水藤子、瀨川路三郎「お岩役者」日活多摩川超特作伊澤一郎、橘公子「わが戀せし女中さん」全發聲日本版ユニヴアサル超特作大音樂劇ドリス・ノーラン他「明朗色時代」外支那事變特報

⊠聚樂館―東寶超特作入江たか子、千葉早智子高田稔「良人の貞操」大會、竹久千恵子、小林重四郎、藤原釜足、岸井明「東海道は日本晴」外ニユース

平市人事

回出生

△新川町三絲川安吉氏四男弘治君

△材木町三五目下東京市深川區東陽町一ノ一七西野國近氏長男啓太郎君

ラヂオ　KHOJ

今晚の部

▼後六、〇〇 不思議問答子供のテキスト編輯部
▼後七、四〇 講演「長期建設と我國の財政」汐見三郎
▲後八、〇〇 浪花節「祖國の花嫁」天中軒雲月
▼後八、四五 舞臺劇（東京劇場より）「麥と兵隊」新國劇連中

明日の部

▼後〇、〇五 新邦樂
▼後二、〇〇 名曲の鑑賞「日本音樂」小田愛子
▼後六、〇〇 音樂「故鄕に來て」外 鈴蘭合奏團
▼後八、〇〇 獨唱 歌劇「フラテイアヴオロ」デイアヴオロの歌外 德山璉
▼後八、二〇 漫才「昔友達」橫山エンタツ外
▼後八、四〇 浪花節「熱血の道」廣澤虎造

愛憎三度笠

吉川　延　作
瀧　秋方　畫

（137）……

運命 十一

「さうか、少しも氣付かなかつた。俺はお前が矢張田舍で、兩親を助けて働いてゐる事とばかり信じてゐた」

「さうでしたか。さうするのが子としての道なのでございますけど……」

「さうか。困つたなア」

と、大助は太息を吐いた。

「お困りなさいます？」

「あゝ、然し、お前と暮すにしても俺には生活の道がない」

戀愛よりも生活である。如何にして若い男女が、生活の脅威を感ぜずして、戀愛生活を營む事が出來るや否やが昔からの問題であるに違ひなかつた。

お絲に[illegible]、そこまでの考へを持つてゐなかつた。

里見の若旦那といへば、生活に不自由のないものとばかり考へてゐたのである。

「さうでしたわね。若旦那は御勘當の御身の上ですわね」

と、今更ながら思案にくれてくんなりと頭を垂れた。

「ウン、俺も實は困つてゐる所なんだ」

大助も、腕をこまぬいた。

「一層の事故鄕へ歸りませう」

彼女としては、大助に逢つて彼をつれて歸れば、故鄕に歸つて親の世話になるのが安全だつた。

「いや、それはいかぬ。兎に角明日までに考へやう」

大助は、この場面永く不愉快な思案をつゞける氣持になれないのである。

翌朝二人は、寢みだれ髮を朝風に吹かせながら緣側の障子を開いて、庭の露草を眺めつゝぼんやりとしてゐた。

歡樂の後の物淋しさである。

庭石の間から、赤い花をのぞかせてゐたほうせん花のすき透くやうな翠の葉に露がたまつてゐる。

彼女は最早、昨日までの彼女ではなかつた。疲れたその顏には惱みとよろこびとが交錯してゐた。

離れたびんの毛を拂ひもあへず、夢をおふかのやうに、ぢつとそのほうせん花の露を含んだ赤い色を見入つてゐた。

二人は、顏を見合せる事さへ何となくきまりが悪さうに、互に顏を見ない樣に默つてゐた。

何といふこともなく懶しい朝ではあつた。

「手水をつかつて來やうぢやないか」

と、大助は暫く沈默をやぶつた。

「エ、あなたは？」

「俺も行く」

「御一緒に參りませうか」

「いや、お前、先に行つたがよい」

女の身で寢みだれた姿を、男に見せるものではないと、母から聞かせられた事があつた。

彼女はフト氣付いて、やゝはぢらつたかうす紅く、頰を染めたまゝ

「お先へ」と、小聲で囁くやうに、廊下をすべりながら、用水のある所へ急いで行つた。

大助は、その後姿を見送りながら何だか淋しい悲しみを抱いてゐる。

世の中には、相手が賣女であらうと、處女であらうと、區別をせずに弄ぶことを男の特權の如く思つてゐる男が居るが、大助には、さうした氣持が起らなかつた。女との關係はすべて彼の行動を抑制し、束縛する。

趣味

出征兵への感謝

福島　貞子

これは驛などで見かける光景です、出征なさる方の前を通る時、大部分の人は、じろ／＼見ながら通り過ぎて行きます（斯ういふ人は、心の中で感謝し、その盛途をねぎらつて居るのでせうが）中には見向きもせずに平然と行つてしまふ若い娘さんも居ります、私共に代つて酷寒の中を艱苦をいとはず國家のために戰つて下さる之等の勇士の門出に際し、この樣な無禮な行爲が平然と行はれてよいものでせうか、この場合僅かの時間を割いて側に近づき、丁寧に會釋して「この度びは御苦勞樣でございます」「どうぞしつかり戰つて來て下さいまし」ぐらゐの言葉をかけたなら、召された當人もどんなにか嬉しい事でせうに、殊に他の人にかこまれて汽車の時間を待つてゐる人には必ずこの位の禮儀は盡して貰ひたいものと思ひます、例令その場合、言葉をかけるのが不適當な時でも、せめて默禮して通り過ぎるべきではないでせうか、この事はなすべきが當然であるのに、その當り前のことが實行されて居ないのは甚だ殘念です、又出征者に對し申譯ない事だと思ひます、小さい人達は、學校で敎へられて居る事でせうが、更に、母親がよく注意すべきです、若い婦人方に是非とも心がけていただきたいことだと思ひます

古切れの利用

【附木反貼物】經四ツ切りにして附木の代用にすれば便利です、また紙や紙屑籠或ひは子供部屋、女中部屋の襖や壁、押行李や竹行李等の破れを貼りますと非常に丈夫、また折りたゝんで給數などを作ると面白い（佐藤生活部發表四）

婦人と家庭

直ぐに役立つ　五分間講座□

底が破れた草履

修繕すれば使へます

革製品は統制され、キルクは輸入制限、フェルトの草履も羊毛の使用統制によつて市場から姿を消す事になりましたが、どちらの家庭の下駄箱にもまだ／＼十分使用に耐へる高級な草履が棄てられてあると思ひます。この際これらの更生法はどういふ風に行ふか——

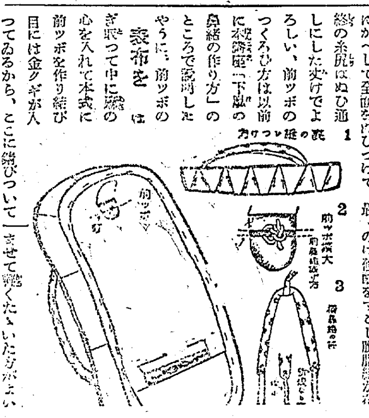
…◇◆◇…

婦人草履で最も多い破損は第一底のゴムや皮のはがれたもの、第二は

前ツボ　の切れたもの、第三は横鼻緒の切れたもの、第四は皮が變色したり、わづかに裏の隅に多く糸を出し、ゴザ目の間にのぞかせて針を下斜にかへして全面をぬひつけて、最後の糸尻はぬひ通しにした丈けでよろしい、前ツボのつくろひ方は以前に本誌座「下駄の鼻緒の作り方」のところで説明したやうに、前ツボの

表布を　はぎ取つて中に麻の心を入れて本式に前ツボを作り結び目には金クギが入つてゐるから、ここに結びついて [illegible] こに新しいツボ [illegible] 通し金で [illegible] またがして圖解（2）のやうびつけ、上から前ツボの [illegible] 短いクギで打ちつけておけばよいのです、横鼻緒の切れたのは切れた麻糸の切れはより上に、で孔をあけ圖解（3）のやう規な

麻糸を　通してきつちびつけて、新しい鼻緒をむすうに結んで行けばいいのです、履の表のよごれたのは疊表風のは藤表をすこし脱脂綿か布 [illegible] ませて輕くたゝいた方がよい



木札や瀬戸の表札や看板の書き方

木札の表札がよごれてしまつて書きなほす時には表面を出來るだけ平にけづつておしろいかトノコか白墨を塗り、墨を淡目に解つて書くとにぢみが出來ません、一番いゝのはゼラチンを墨に少し入れて書くのです、この場合はゼラチンをあまり澤山入れると書きにくゝなりますからごく少量筆の運びに困難を感じない程度に入れます、この方法ですと木の地に何も塗つてないのできれいです、また白色の瀬戸の表札は表面を先づ揮發油でふいてよごれをおとし、うすく殘つてゐる文字の上をエナメルで書くか、色漆の黑で書くかします、瀬戸は表面がつる／＼してゐますからエナメルや色漆で書いても落ちやすいので前に書いてあつた字の上をなすつて書けば永もちします

『この機會を逸せず過去の弊風を一掃』

國策への協力を目ざして躍進

國民精神總動員の運動積極化

總　動員運動は精神方面から次第に物資方面に展開して名實とも國民一般は覺悟の程を示して參りました、その成果もだん／＼具體化となつて來た事は各自の認識が深まつて來たよき證據であります、この運動も愈々本格的にならうとして參りましたので、國民精神總動員中央聯盟主事伊藤傳氏に家庭の經濟と家庭婦人として心構けをお聞き致しました

先　づ國民生活の建て直しを第一に取つて實施して行きたいものです、生活の様式生活用品にまで改造運動をおこしてゐるわけですが、これはかういふ機會に是非改めて見なければならなかつた過去の弊風だつたのです、併し今度の生活改善には更に重大な意義が付け加はつてゐます、即ち私經濟のための改善ではなく、國策に協力する生活の改善であらねばならぬ點です、これこそ飛躍日本の基礎を形成するものであるが故に前途に洋々たる望みを以て改め進むことが出來る次第です

生　活改善運動も恐らく婦人の手によつて行れることが多いので、大なる期待が婦人の上にかけられてゐる譯で、銃後の經濟戰の一戰士として其重大な使命を果される時機に希望します、廢品の回收利用、物資の更生等も婦人の働きに待つ處が非常に大きいのです、服装改善問題は簡易化する方針ですが土地土地の習慣風土も考慮せねばならぬので新しく委員會を設けて研究を積むことになつて居ります

國　民貯蓄運動も、その問題においてや一家のとりなし經濟等のためではなく、國策經濟に協力する爲に、意義が見出されるのです、主婦は平時には家庭經濟の立場から行動する事はやむを得ないことと考へられますが戰時の今日それは絶對に許されません、日本一國の浮沈をかけたこの大事件の最中生活の切下げも貯蓄も勤勞奉仕もその他凡ゆる運動實踐は皆最後の目的達成のためであります

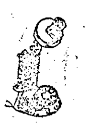
白　米食廢止運動も體位の低下を防ぎ且つ物の消費節約を [illegible] るため前から、榮養 [illegible] 位で行かねばならぬので、米が自ら有する榮養を生かさんがため七分搗米又は半搗米を獎勵することとなつたのです、これから大いに飛躍せんとする現在の國情に對處せねばならぬと [illegible]

極地の彼の懐へ

單身氷を踏んで？

【…モントリオール發】最近モントリオールを出發カナダ領北氷洋へ出發のハドソン灣開發會社の汽船ナスコピー號には、北氷洋の彼方氷に閉ぢこめられた天幕内の無電局に勤務する若い無電技師の所へ結婚に行くうら若い女性が乘込んで人の目を惹いた、彼女はスコットランド、ピーターヘッドのアイリーヌ・ウォーレス孃で彼女の嫁ぎ先はハドソン灣開發會社のハドソン灣に面したチャーチル基地の無電技師A・R・スコット君である

▽…スコット君とアイリース孃は幼な馴じみであつたがスコット君がハドソン灣開發會社の無電技師に就任、極北の無電局から無電のキーを操つて戀ひのたけをアイリーヌ孃の許へ殿々打電した極北の氷をも融かすスコット君の熱情が、遂にアイリーヌ孃を動かし、單身氷の最中の新郎の許へ乘り込む事となつたもので、千里の道を遠しとせぬとは此の事と專らの評判である



軍國女性マンガ譜

熟練工の天下

煙突の林立、谷間をうづめた灰色の工場、ここは××軍需工場だ

「隨分この邊は乞食が多いね、インフレといふのに……」

すると、日給三圓をかせぐ熟練工の彼女はアルミの辨當をガチャつかせて「つまり職工のおこぼれ頂戴の乞食よ」

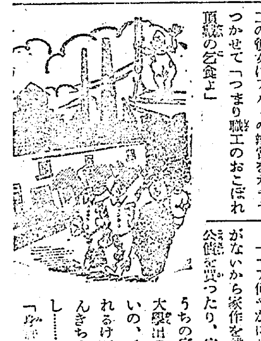
「僕も職工さんになりたい」といへば

「賛成わ、私達姉妹三人同じ會社の部分工場でスクラムをくんで働いてゐるの」

「月收合計五百圓！」

「マア何やかにやでね、遊び道具がないから家作を建てたり、家賃公債を買つたり、定期に入れたりうちの家作には○○大學出の新婚夫婦が多いの、チョイと當てられるけど、家賃をきちんきちん拂つてくれるし……」

「[illegible]が勝だし……」



江東方面だつて職工萬歳よ、[illegible]のデパートの [illegible] で、いきなり [illegible] なんですつて [illegible] つて、お [illegible]

「しかも [illegible]」

「まあ [illegible]」

[illegible]

御存じですか　物の數の呼び方

☆……日本の數の呼び方には色々あるのは御存じの通りです、平常何知らないでも大した不便も感じませんが手紙に書くとか、改まつた場合には、是非正しい呼び方をしたいものです、左に代表的なものを列記してみませう

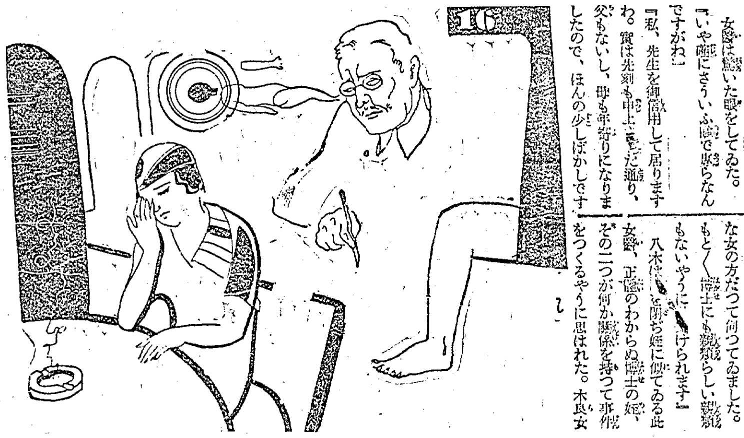
△衣服、一重△羽織、一枚△袴、一下△[illegible]、一揃 一丸△半紙、一帖△紙、一[illegible]△手紙、一封△[illegible]、一通△額、一面△碁盤、一面△琴 一張△提燈、一張△幕、一張△簞笥、一通△屏風、一[illegible]△刀一口△香、一炷△香爐、一[illegible]△花一枝△酒、一樽△木箱、一[illegible]△菓子、一折△赤飯、一重△[illegible]△折魚、一尾△鳥、一羽△[illegible]△棹△茶器、一揃△[illegible]△一本△枚數、一[illegible]△一帖△織物、一[illegible]△鐘、一挺

祖國（そこく）

堀　健吉　作

畠野　[illegible]三　畫

怪奇な夜（三）　二六



親子からさう云はれると、またしても折角立ちかけた腰がソファにふたゝび落ちるのであつた。

『實は、變なことをお伺ひしますが、千葉博士は始終淺草へお出かけになるさうですね。あの人も勅任官になつて忙しいんでせうなあ』

『まあ、千葉先生が、まさかあんな世間とは全然交渉のない方が淺草なんかへどうして行らつしやいませう』

女醫は驚いた眼をしてゐた。

『いや離にさういふ噂で聞らなんですがね』

『私、先生を御信用して居ますわ。實は先刻も申上げた通り、父もないし、母も年寄りになりましたので、ほんの少しばかりなことをきくと、眉をしかめていやな顏をなさいます』

『思ひ出しになるのが不愉快なんで御座いませうね』

『もつと、心の中にせつない秘密があるのかも知れません』

『私、姫御さんに似てゐると云はれますと、體がぞつとしますわ。今度は私が解剖される番ぢやないかと思はれまして』

『して、姫の方つて、御兩親は博士の家へ葬式にいらしつたんでせうね』

『ところが、御兩親のない方なんですつて、何でも餘程、不仕合せな女の方だつて伺つてゐました。もと／＼博士にも親類らしい親類もないやうに見受けられます』

八木は先刻の姫に似てゐる此女醫と、正體のわからぬ博士の姫、その二つが何か關係を持つて事件をつくるやうに思はれた。木良女醫は言葉を續けた。

『しかし、何でも博士には隱し子があるとも云ひますし、まだ無いといふ方もあるのです。何にしても、現在の夫人との間に、お出來になつた方ではないやうです』

『それは混沌とした隱說です、ね』

八木はます／＼迷路に入つた。そして正體の分らぬ博士をラクシャの蓮花みたいに考へた。

『ときに、お隣りはどんな方がお住みです』

『右の方は畫家、とても貧しいなんです。なりも振りもかまはずにたゞ藝術のために生きてゐるといつた風の方なんです。左の方の部屋にお住まひの方は、てんで顏を合せた方がないんです』

木良女醫は紅茶を八木の卓子にのせた。そして、窓のそばへ歩いてゆき窓をあけた。

『あゝ、綺麗ですね。星が美しくかゞやいてゐますわ』

さう云つて暫らく窓ぎはに立つたまゝで感歎してゐた。そしてまた自分の椅子に戻つた。

けど財政の衛理や家庭上のことも一切千葉先生に御相談に乘つて頂かうと考へてゐる位です』

『あゝ、そんなにまで尊敬してゐられるのかなあ、案外、思ひがけない人物かも知れませんよ。だが博士は立派な女弟子を持つたと云つてほくそ笑んでゐるでせう』

『まあ、おからかひになりますの』

『何もかも、みんなあとで分りますよ。さあ引きあげませう』

『お氣にさはりましたか知ら』

『そんな譯ぢやないんです。あんまり遲くなりました』

『左樣で御座いますか、それぢや温い紅茶でも召し上つておかへり遊ばせ』

八木はまたしても、引き止められた。女醫はすんなりとした腕を動かして、紅茶をこさへるのだ。

『それはさうと、死亡なすつた姫の方つて考へやうによつちや綺麗な方になりますな』

『えゝ、まつたく御座いますね』うつと不思議なのは、その姫つては、私に瓜二つなんですつて。研究室の若い助手達はみんなさう申します。然し博士だけはそんな風

銃後の皆樣喜んで御使用になる

糸イラズ

綿布、綿糸、慰籐の折柄古き破れた足袋、靴下、メリヤス、ジャケツ其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひいては國家の經濟は莫大のものとなりませう 男子の方や御子樣方でも容易に修繕が出來ます 糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい

定價 20錢 30錢

平市古鍛冶町一〇

阿康藥局

電話四四番 振替東京三〇〇六五番

御婚禮御着附

パーマネントウエーブ

和洋結髪
オゾン美顏術
御染髮洗毛
御爪美術

平市驛前

水野化粧院

電話六七八（營業所）五二五（自宅）

年末年始の贈答品に兵隊さんの慰問品に

郷土色豊な

たひら羊羹!!

如何なる長期間にも、如何なる高温にも絶對變質せず遠い戰地の慰問品として最適（東京衛生試驗所證明濟）

平市銀座通り　松月堂　電話二〇六番

販賣所　平驛前 佐原屋
驛構內賣店
驛ホーム立賣
東京丸ビル二階 福島縣物産陳列所

三井タクシー

平二　電話六八五番

齒科口腔外科
レントゲン科

院長 東京齒科醫學士 原 稍一

原齒科醫院

電話三一一番 平市土橋通

齒科一般

小名濱小學校前

齒學得業士

村上　豐

平病院（電六四一番）

平市警察署側（元共濟病院跡）

院主 醫學博士 鈴木 定藏

內科 小兒科	院長	鈴木 定藏
外科 一般外科 皮膚泌尿器科	副院長	高橋 俊幸
レントゲン科 物理的療法科	部長	鈴木 定藏
藥劑科	部長	吉本 孝平

◎診療時間　每日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ從事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）

往診隨時

病室完備…入院隨時【自炊ノ便アリ】

入院料　一日 特等貳圓・一等壹圓五拾錢・二等壹圓參拾錢

花柳病科外科

木村外科醫院

平市六丁目橋際　電話三〇九

秋！食慾の秋！

季節向

なべやき

天ぷらそば

何卒御試食下さい、多少に拘らず迅速に配達致します

平市田町

やぶそば

電話四番

御贈答には……

"是非!!!"

干やなぎと鰹節

▽「鰹塩から」も御座います

魚問屋

志賀盛榮商店

平市四丁目（電話二一三番）

芳醇！美味！

たひら正宗

山崎合名會社　電話一〇番

メガネは！

平市一丁目

玉屋

家傳 安流丸

梅毒と たい毒 吹出物に はれものは

安流丸に限る

平市田町

阿部藥舖

フケで頭の痒ゆい方に……

三共のサボイド石鹼の御使用をおすゝめ致します。

本石鹼は最上の原料により製せられた硫黄コロイド石鹼ですから、其他あらゆる皮膚病の方が用ひてよろしく、又、皮膚病豫防の目的にて常用されゝば美容と衛生の上から非常に喜ばしい效果をもたらします。

1ケ20セン

三共株式會社代理店

西村屋藥局

平市本町二丁目　電話三番